

大深度地下問題の現状と課題

東京都調布市で大深度地下のトンネル工事による陥没事故が発生して、2年が経過しました。陥没以前にも、工事による騒音・振動などの被害も多発していました。

公害被害、そして陥没での家屋等の被害が発生しても、NEXCO 東日本等事業者は、被害者や周辺住民に被害原因や被害に対する賠償に関して、十分な説明すら行わずに日が過ぎてきました。ここに来て、事業者は、陥没事故に対する地盤改良事業に関するオープンハウスを実施するなどして、工事を進めることを急いでいます。

大深度地下の利用は、東京外環道ばかりでなく、リニア新幹線でも工事が始められ、北陸新幹線の京都でも工事に向けた環境評価手続きが着々と進められています。

『環境と公害』52巻1号では、「大深度地下利用の現在と課題」というタイトルで特集を組み、大深度地下法及び大深度地下のトンネル工事の問題点を明らかにしてきました。

特集論文の中から4つの論文について、著者が解説ないし論点をめぐる報告を行います。

申し込みは、

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_IFsr2naFQKSzI9c5BJp8SA

からお願い申し上げます。

または、日本環境会議のHPの「最新のお知らせ」関連イベントから申し込みのページに入れます。

日時：2022年11月27日（日） 午後1時30分から4時15分

形式：オンライン形式

テーマ：大深度地下問題の現状と課題

プログラム

はじめに 磯野弥生（「環境と公害」編集同人）

丸山重威（ジャーナリスト・東京外環道訴訟原告）

東京外環道における大深度地下問題の現状と課題

浅岡美恵（弁護士）

北陸新幹線の大深度地下の課題・大深度地下計画と環境アセスメント

窪田亜矢（東京大学・特任研究員）

大深度地下事業という公共事業の課題：都市計画の立場から

樋渡俊一（弁護士・田園調布リニア工事訴訟原告代理人）

大深度地下使用法

上田昌文（市民科学研究室） 大深度地下工事と振動・低周波音被害

質 疑

なお、資料は『環境と公害』52巻1号掲載論文です。